

認定こども園 六甲藤原台幼稚園

令和5年度 学校評価

1. 本園の教育目標

- 体の丈夫な逞しい子ども
- ものをよく見、よく聞き、自由に考える子ども
- 明るく伸び伸びと表現する子ども
- 決まりを守り友だちと仲よく遊ぶ子ども
- 真剣に最後までやり通す子ども
- 辛抱の出来る子ども
- 感謝のできる子ども

2. 重点的に取り組む目標と計画

- 思いを自分なりに表現し、興味を持った遊びを継続できる環境構成（人的・物的）を工夫する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

自己評価結果（達成状況）

【A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった】

評価項目	結果	具体的な内容と成果
個々の興味や心の動きに気付き関わりを工夫する。	A	スキンシップを多くとり、思いを受け止めたり、保育者が言語化して寄り添ったりして関わりを工夫した。また、心の動きに関して職員間の情報共有を密にすることで、子どもも安心して自己表現をすることが出来た。 各クラス子ども達が興味を持った遊びを見つけて、活動が広がり、行事等にも活用することが出来た。
子どもの姿に合わせた環境構成（保育室・園庭）を整える。	A	子ども自身が「やりたい」と思えるような道具・遊具の配置替えや使い方などの情報共有を密にするため方法を見直した。方法を変えることで職員間の意識が高まり、子どもが考えて、自ら環境を整える姿が見られるようになった。
ドキュメンテーションを保護者への見える化だけでなく育ちの記録として活用す	A	ドキュメンテーションを使って、子どもの興味・関心やクラスでの取り組みの状況をリアルタイムで配信することで保護者に伝えることが出来た。 子どもの育ちも意識しながら作成することを心掛け、見返すこ

る。 とで育ちの気付きとなった。

○学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	子どものやりたい気持ちを尊重し、主体的に活動が出来るような援助や環境構成の工夫を進めていった。十分な活動の時間を確保し、ドキュメンテーションの配信で保護者や職員も巻き込み取り組んだことで、子どもの学びの意欲が高まったように感じる。ドキュメンテーションでは昨年度よりタイムリーに発信でき、子どもの興味・関心やクラスの取り組み状況を保護者に伝えることが出来た。また、ドキュメンテーションを子どもの育ちの記録として意識しながら作成することで、育ちの気付きとなった。次年度も引き続き、育ちの読み取りの研修を取り入れていきたい。

○学校関係者の評価

アンケート結果にもあったように、子どもが毎日楽しく通園している。卒園児の兄姉も幼稚園が楽しかったという記憶が残っており、それが人として幼児期に育まれるべき心の土台となっていると感じる。興味を持って取り組もうとしているかの項目では生活発表会によく表れていた。興味のあることを突き詰めいくと、それが子どもの自信に繋がると実感した。

本園の教育目標はこれからの子どもの育ちの為に必要な事柄ばかりである。今回の結果は子ども主体で考え取り組んできた成果と思える。今後も子どもが楽しく登園できる園であって欲しい。

学校評価委員

松本 茜

林申田 真理子

大久保 文子

立石 由紀子